

ボーイズタウン
コモンセンスペアレンティング
幼児版連続講座

アンケート調査結果報告書

2021年7月

実施期間：

2020年4月1日～2021年3月31日



*"When you help a child today,
you write the history of tomorrow."*

- Father Edward J. Flanagan

概要

実施期間：2020年4月1日～2021年3月31日

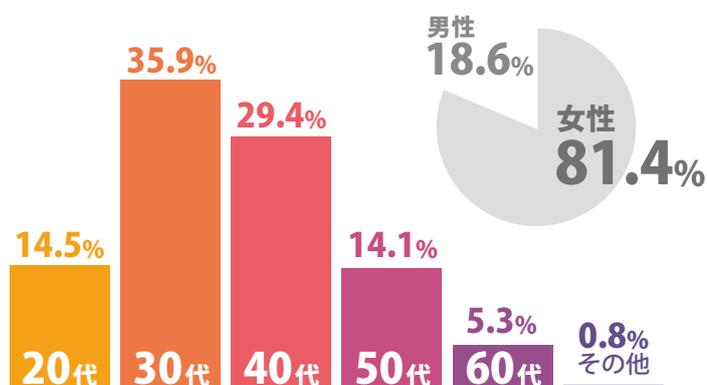
実施連続講座実施数：81講座 / 受講者数：279名

実施アンケート

- ①事前アンケート（回答者数 270名）：講座初日に配布
- ②事後アンケート（回答者数 263名）：講座最終日に配布

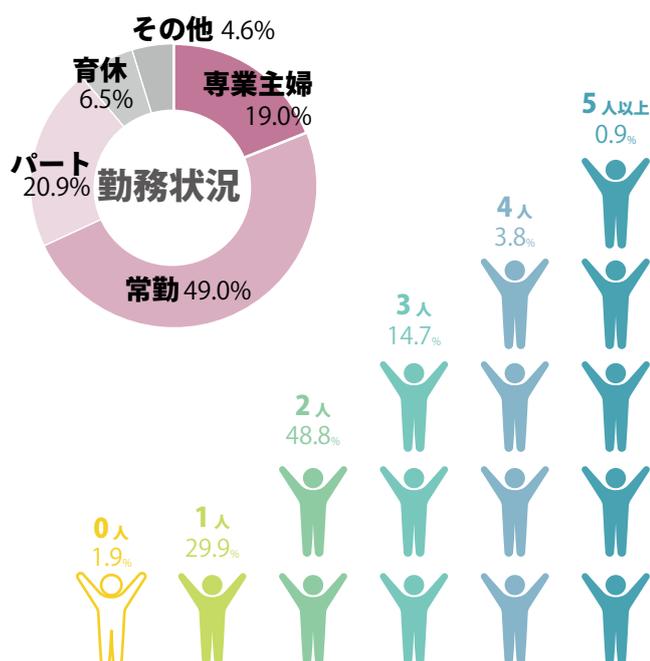
受講者について

年代・性別



受講者を年代別に見ると、子育て世代の31～39歳（35.9%）と41～49歳（29.4%）が全体の約65%を占めました。次に21～29歳（14.5%）、51～59歳（14.1%）、61～69歳（5.3%）、その他0.8%でした。2019年度には9.9%だった男性の参加者が今年度は約倍の18.6%に増加しました。新型コロナウイルスの影響で自宅からオンラインで受講できるようになったことが一つの要因として考えられます。夫婦揃っての受講や父親のみの参加も昨年に比べて増加しました。

勤務状況・子どもの人数



昨年度は受講者の4割弱が専業主婦、常勤やパートは約半数を占めていましたが、今年度はオンラインの導入が進んだため、約7割が常勤・パートという結果になりました。

子どもの人数は平均して1.9人で、最も多い回答は2人（39.9%）でした。子どもが1人の家庭が29.2%、3人が11.6%、4人が3.4%、5人以上が1.3%、0人が2.1%でした。児童養護施設や保育園職員などを対象に開催している講座もあったため、中には子育て経験のない受講者もいました。

子どもに感じている困り感や子育てについて悩んでいること（事前アンケートより一部抜粋）

- ・ 子どもに注意しても問題行動が止まらないときがあり、怒鳴る必要があるのか悩んでいる。
- ・ 朝など時間がない時に子どもが言葉で伝えられず、泣き続ける状況が続くとイライラする。
- ・ ダメと伝えても、その行動をやめてくれないので困る。
- ・ 不登校気味で自己肯定感が低い。
- ・ 歯磨きが嫌いでいつも泣いてしまう。
- ・ 兄弟喧嘩をすると上の子に我慢させてしまうことが多い。
- ・ ADHD の傾向があり、何度も指示をしないと支度や宿題が進まないことがある。



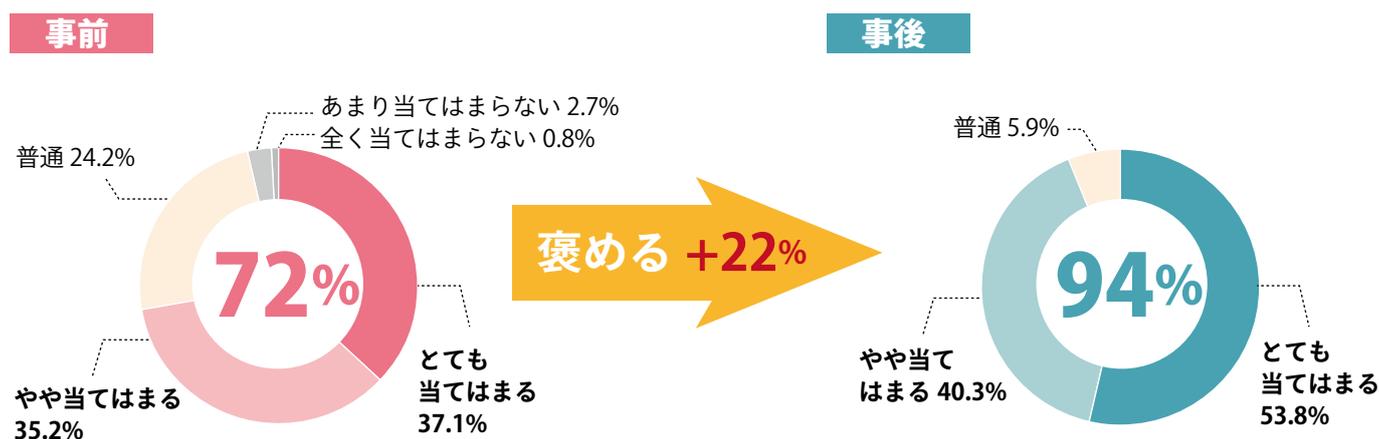
プログラムの効果測定

連続講座初日と最終日に同じ内容のアンケート調査を実施し、効果測定を行いました。質問内容は下記の通りです。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 子どもを褒めることがある | 5. 子どもを叩くことがある |
| 2. 子どもを怒鳴ることがある | 6. 落ち着きを保って「しつけ」をしている |
| 3. 子どもに適応行動（良い行動）がある | 7. 良い親子関係を築いている |
| 4. 子どもの問題行動で困ることがある | 8. 親としての（子育ての）自信がある |

1. 子どもを褒めることがある

「子どもを褒めることがある」に対してとても当てはまる・やや当てはまると回答した参加者は 22% 増えました。受講者は連続講座を通じて、プログラムの重要な要素である「子どもの良いところを見つける」力が身に付いたと言えます。



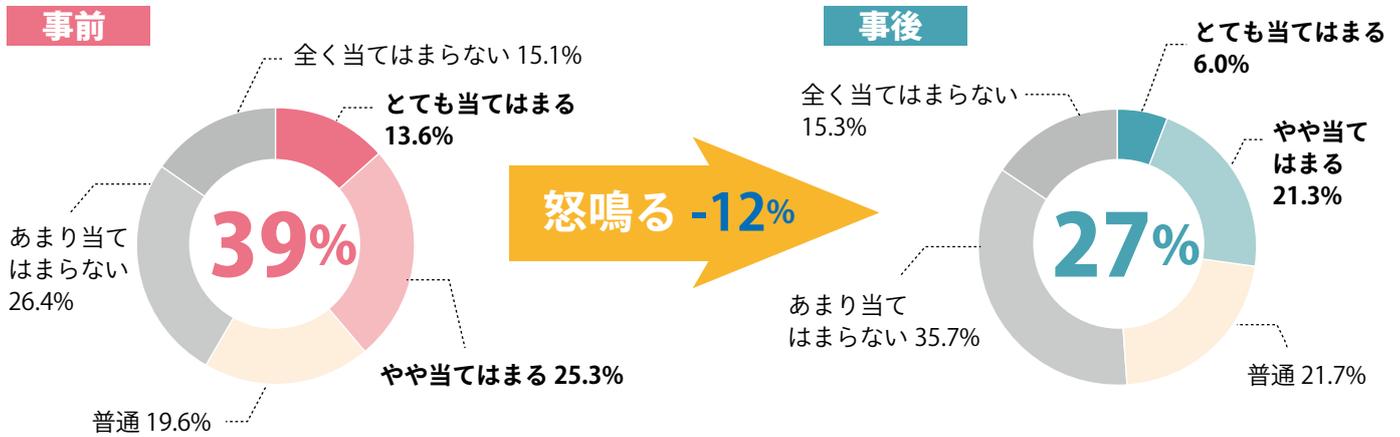
受講者の声

- 自分の子育てには、ほめるということが非常に足りていなかったことに気づいた。
- ほめる量も格段に上がり、より日常生活を楽しめるようになった。
- ほめることで、子どもの良い行動が増えていった。

（事後アンケートより一部抜粋）

2. 子どもを怒鳴ることがある

「子どもを怒鳴ることがある」に対してとても当てはまる・やや当てはまると回答した参加者は12%減りました。適切な期待値の設定や落ち着く方法を学び、実践することで感情的になることが減っています。



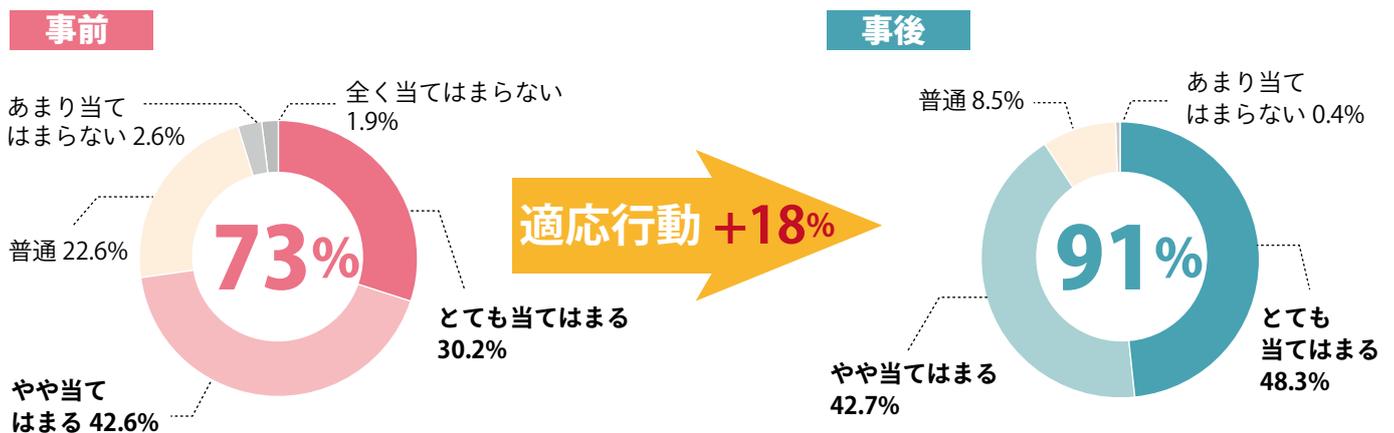
受講者の
声

- **叩いたり怒鳴ったりする以外の方法で子どもをしつける方法がわかってよかった。**叱らずに伝えることが良いと頭ではわかっているけど、ゴールが見えないまま堪えるのは苦行だったので、CSPを受講して、ゴールまでの道筋や方法が見えたことは大きな成果だった。
- 以前より**怒鳴る回数は減った**ように思います。

(事後アンケートより一部抜粋)

3. 子どもに適応行動（良い行動）がある

「子どもに適応行動（良い行動）がある」に対してとても当てはまる・やや当てはまると回答した参加者は18%増えました。効果的なほめ方や予防的教育法を用いることで、子どもの適応行動が促進されました。



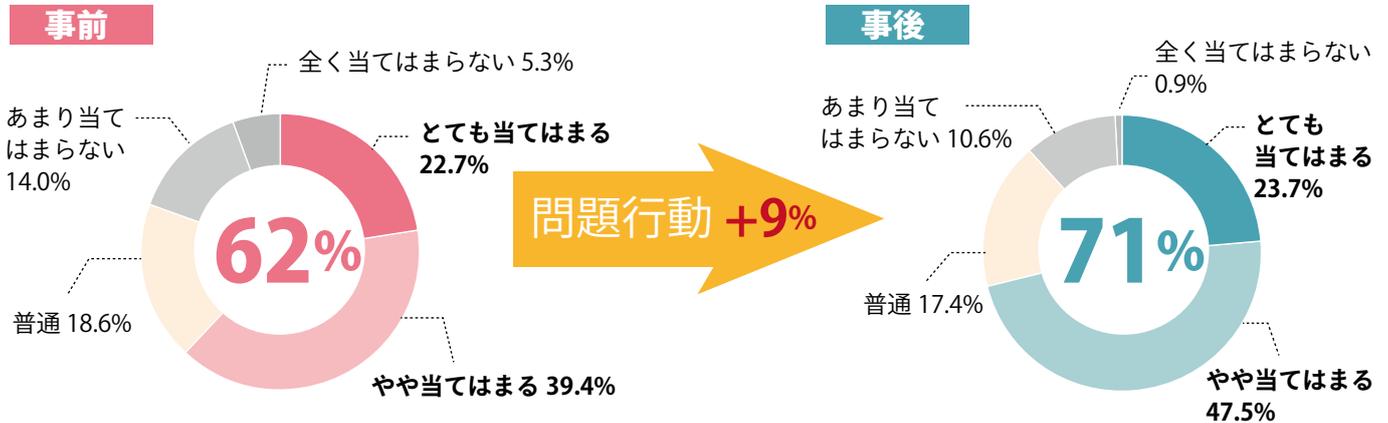
受講者の
声

- 不登校だった子どもが**登校できるようになった。**
- ほめることで子どもが自信をつけ、**さらに良い行動を取ろうと頑張る様子**がみられた。
- 大人の言葉がけ一つで、行動一つで**子どもの行動も変わる**という事がわかりました。

(事後アンケートより一部抜粋)

4. 子どもの問題行動で困ることがある

「子どもの問題行動で困ることがある」に対してとても当てはまる・やや当てはまると回答した参加者は9%増加しました。子どもの行動に良い変化が見られる前に、以前よりも問題行動が増えたり、激しくなることがあるため、増加が見られたと考えられます。



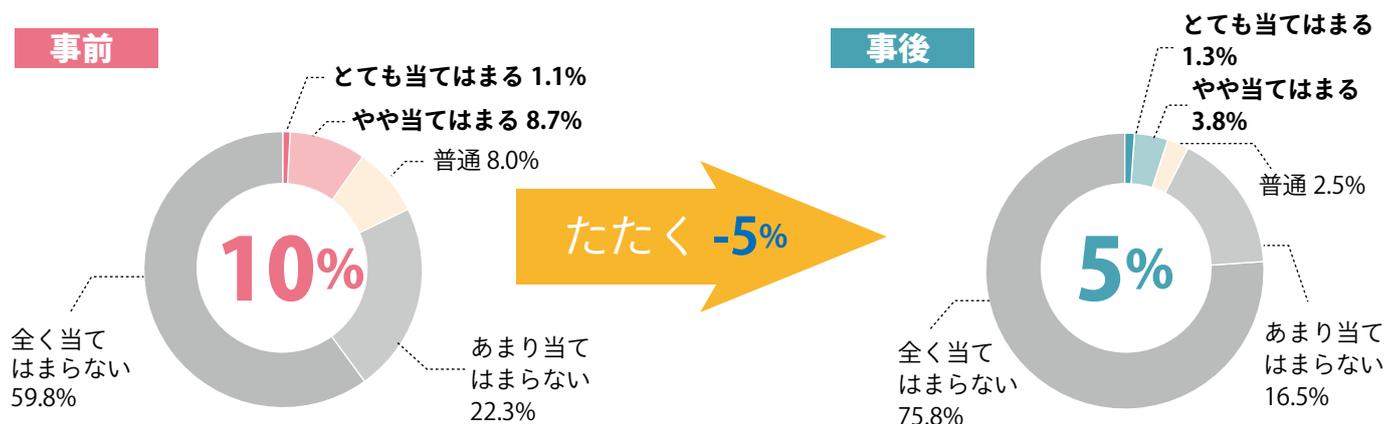
受講者の声

- **子どもの問題行動がとても減りました。**
- **まだコミュニケーションが上手く取れない2歳未満の子どもでも、予防的教育法や効果的な褒め方を繰り返し使うことで、問題行動を減らしていけることが分かりました。**

(事後アンケートより一部抜粋)

5. 子どもをたたくことがある

「子どもをたたくことがある」に対してとても当てはまる・やや当てはまると回答した参加者は5%減りました。子どもと良い関係を構築し、親自身が落ち着くことができるようになり、たたくことが減ったと考えられます。



受講者の声

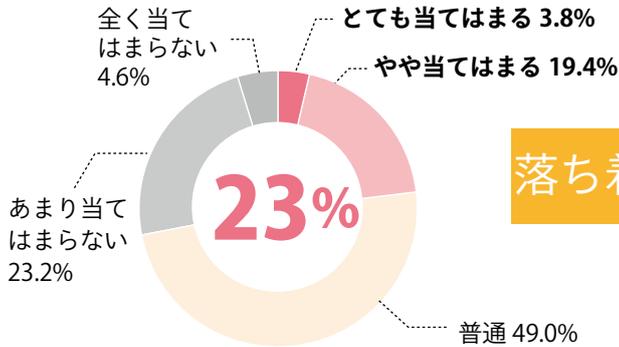
- **叩いたらダメ！と思っていなくても気づいたら、全然叩かずにいれるようになりました。**
- **たたいたり怒鳴ったり頭でわかっている、してしまうことがあったのですが、問題行動の時の対処方法を教えてもらって少し冷静になれそうです。**

(事後アンケートより一部抜粋)

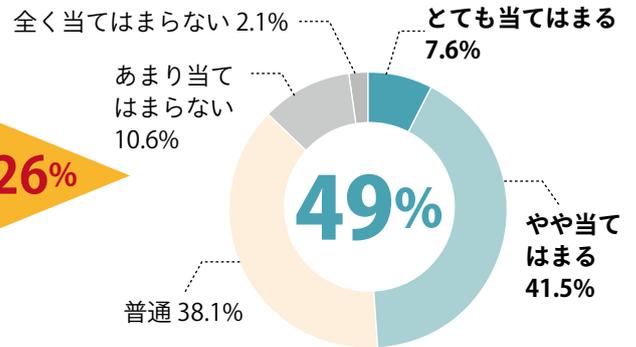
6. 落ち着きを保って「しつけ」をしている

「落ち着きを保ってしつけをしている」に対してとても当てはまる・やや当てはまると回答した参加者は26%増えました。落ち着く方法を学び、実践することで感情的にならない「しつけ」を行うことができました。

事前



事後



落ち着き +26%

受講者の
声

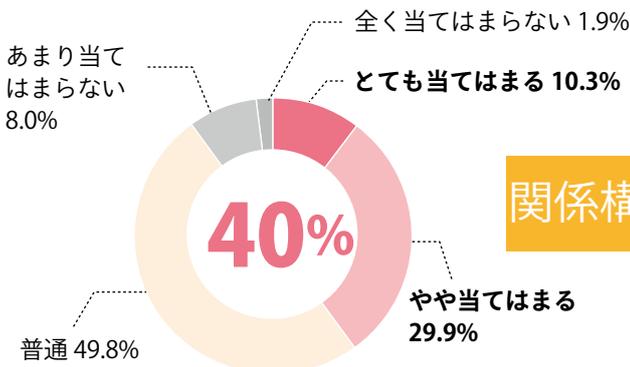
- 落ち着いて子育てできるようになった。
- 子どものグズグズやカンシャクには、以前よりも落ち着いて対応できるようになった。
- パニックを起こした時に自分自身をコントロールする教育法を用いて早く落ち着く事ができるようになりました。

(事後アンケートより一部抜粋)

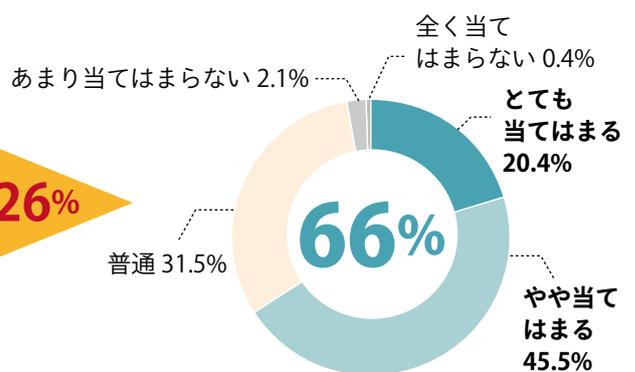
7. よい親子関係を築いている

「よい親子関係を築いている」に対してとても当てはまる・やや当てはまると回答した参加者は26%増えました。CSPの教育法や子どもとの前向きな関わり方を学ぶことで、大きく関係の改善につながりました。

事前



事後



関係構築 +26%

受講者の
声

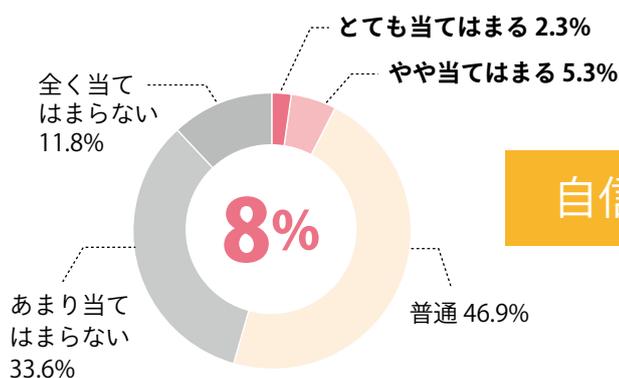
- 以前は3歳の子どもの「イヤだ」に対してイライラしていましたが、発達段階を理解したことで、以前より親と子どもの関係が良くなったと感じています。
- 教育法を活用すると子と自分自身の良い関係性が築けると感じました。自分の伝え方で子の反応がしっかり変わるので、これからも取り入れていこうと思います。

(事後アンケートより一部抜粋)

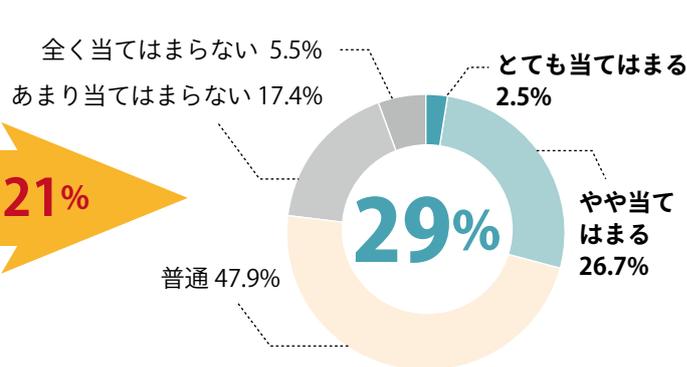
8. 親としての（子育ての）自信がある

「親としての（子育ての）自身がある」に対してとても当てはまる・やや当てはまると回答した参加者は21%増えました。

事前



事後



自信 +21%

受講者の
声

- 育児において、考えるツールを得られたことが大きな前進です。自信に繋がりました。
- 問題行動が起こる前の落ち着いた時間を大切にして、子どもに対して自信を持って正しい方や落ち着き方を話せるようになりました。
- 子育てが楽しくなり、自信ができました。受講して良かったです。

(事後アンケートより一部抜粋)

プログラム評価

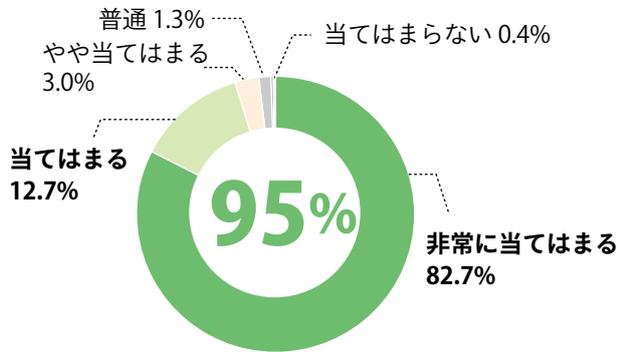
回答者：263名

3つの評価項目「プログラムの全体的な満足度」、「講師・プログラムへの満足度」、「プログラムの各セッションへの満足度」に分けてプログラムを評価するアンケート調査を実施しました。

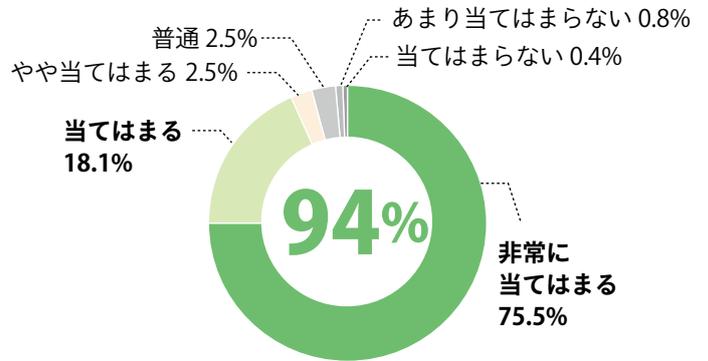
プログラムの全体的な満足度

プログラムの全体的な満足度を評価する質問は全部で6問ありました。「プログラムに参加してよかった」に対して非常に当てはまる・当てはまると回答した参加者は95%でした。この結果から、非常に満足度の高いプログラムであることがわかります。講師に関する評価については、「講師やファシリテーターの指導、教材が良かったと思う」が94%、「参加者の質問に対する講師の回答や対応が良かったと思う」が92%、「講師は様々な教育法を伝える際、たくさんの例をあげ、わかりやすく教えていたと思う」が95%と高評価でした。参加者の今後の取り組みに関する質問、「このプログラムに参加し、家族との関係を前向きに変えてゆこうと思う」に対しても96%が非常に当てはまる・当てはまると回答し、プログラム参加後の前向きな姿勢が確認できます。最後に、「このプログラムを友達や知人に勧めたいと思う」に対しては83%が勧めたいと回答しました。

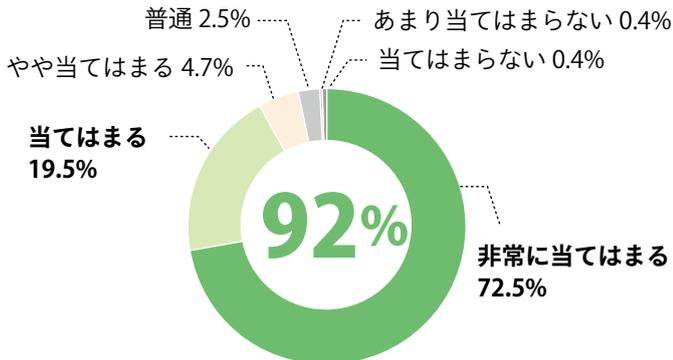
プログラムに参加してよかったと思う



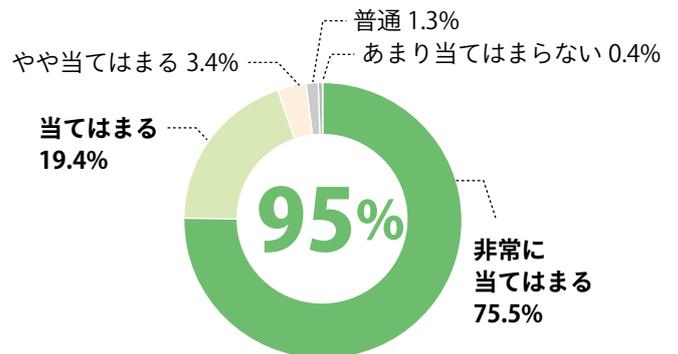
講師やファシリテーターの指導、教材が良かったと思う



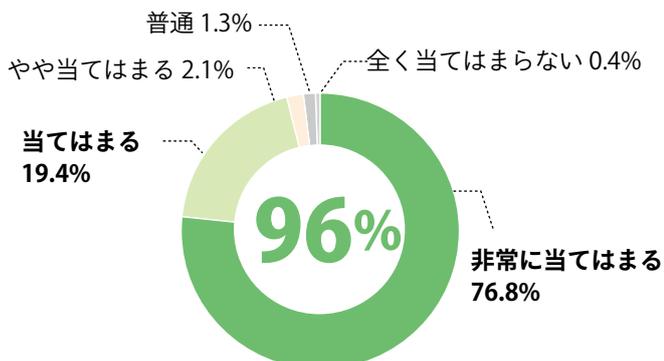
参加者の質問に対する講師の回答や対応が良かったと思う



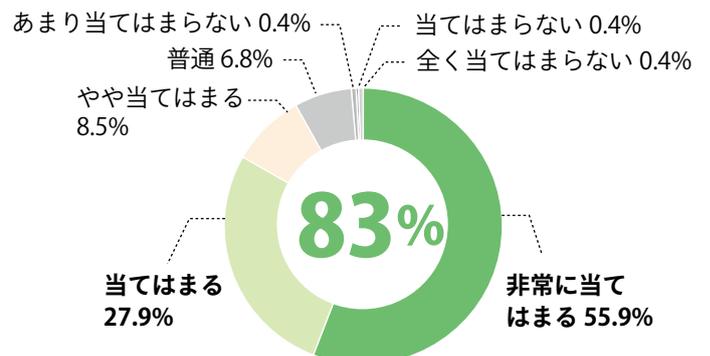
講師は様々な教育法を伝える際、たくさんの例をあげ、わかりやすく教えていたと思う



このプログラムに参加し、家族との関係を前向きに変えてゆこうと思う



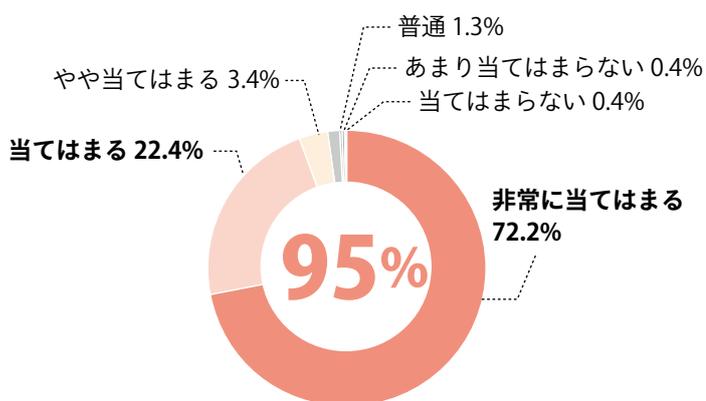
このプログラムを友達や知人に勧めたいと思う



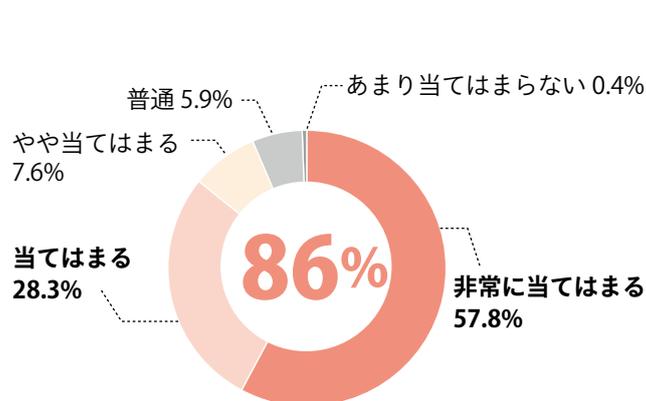
講師・プログラムへの満足度

講師・プログラムへの満足度を評価する質問は全部で4問ありました。「講師の説明の方法に満足できましたか」に対しては、95%が非常に当てはまる・当てはまると回答しました。「スキル練習の回数と内容は満足できましたか」に対しては、86%が満足していると回答しました。「次回までの課題に取り組めましたか」に対しては、取り組めた参加者が62%と他の質問に比べて低い結果となりました。忙しくて家に帰って課題に取り組めなかった参加者もいるため、こういった参加者への講師のフォローアップが今後も重要です。最後に、「DVD映像はよく理解できましたか」に対しては、81%が理解できたと回答しました。

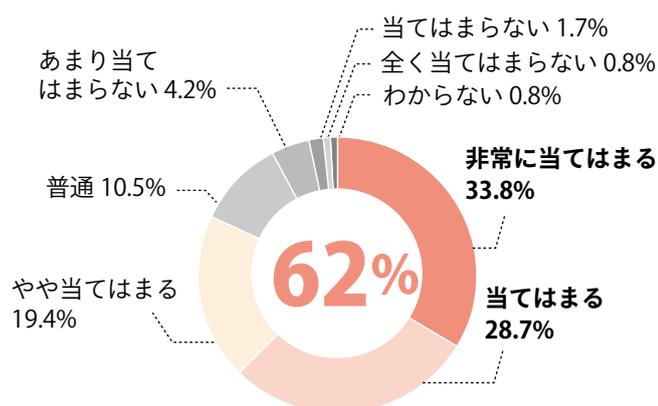
講師の説明の方法に満足できましたか



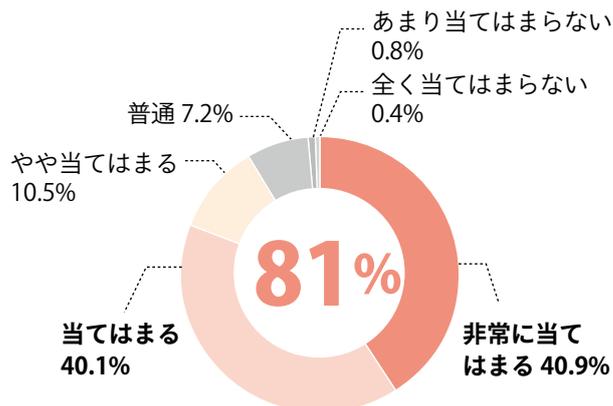
スキル練習の回数と内容は満足できましたか



次回までの課題に取り組めましたか



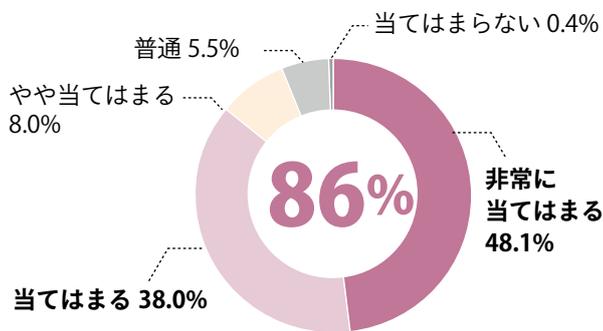
DVD映像はよく理解できましたか



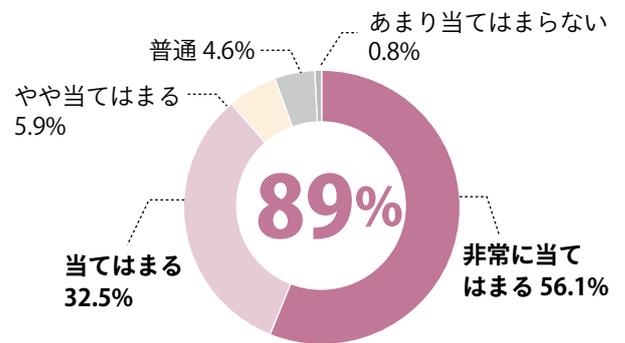
プログラムの各セッションへの満足度

プログラムの各セッションへの満足度を評価する質問は全部で10問ありました。家族との関係構築に役立った・満足したと感じた参加者を項目別に見ると、次のような結果になりました。「子どもの発達」86%、「適切な期待値」89%、「育みの行動」89%、「わかりやすいコミュニケーション」88%、「結果を用いる」87%、「効果的なほめ方」90%、「予防的教育法」89%、「問題行動を正す教育法」83%、「落ち着きを保つプラン」87%、「自分自身をコントロールする教育法」86%。

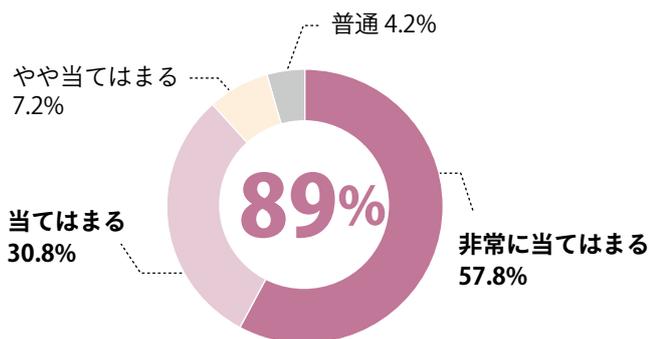
子どもの発達



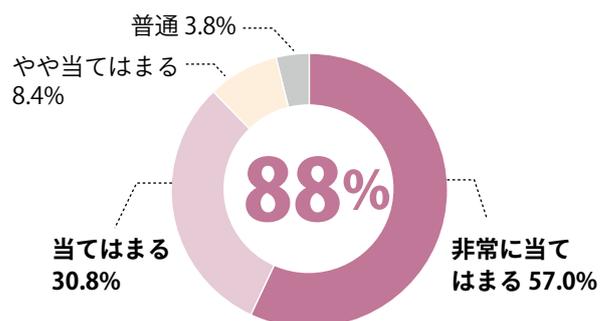
適切な期待値



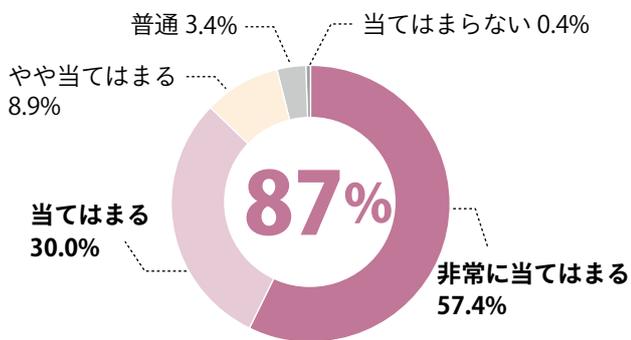
育みの行動



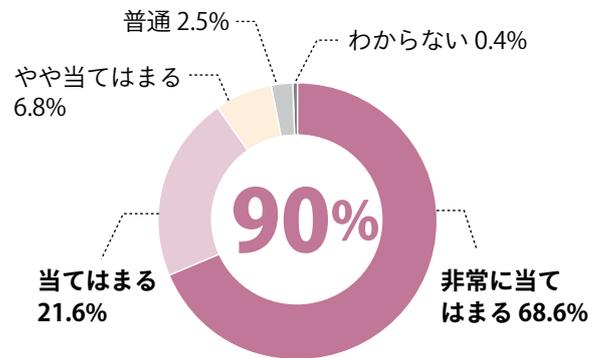
わかりやすいコミュニケーション



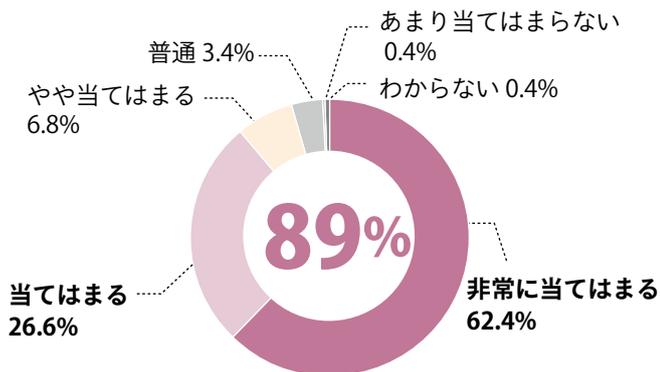
結果を用いる



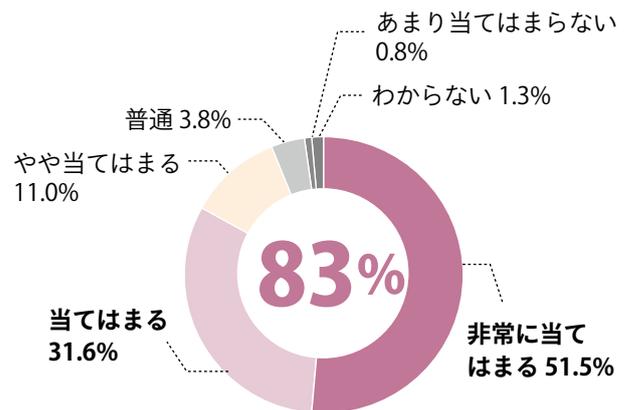
効果的なほめ方



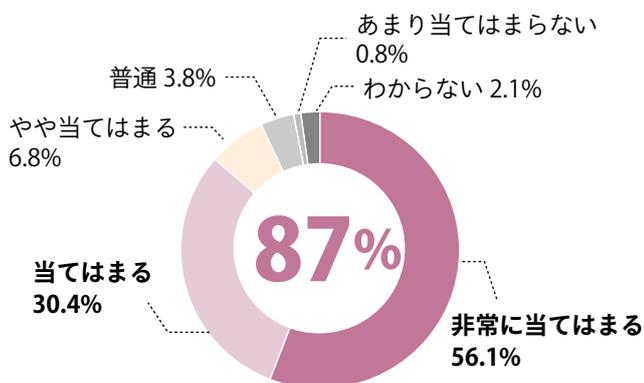
予防的教育法



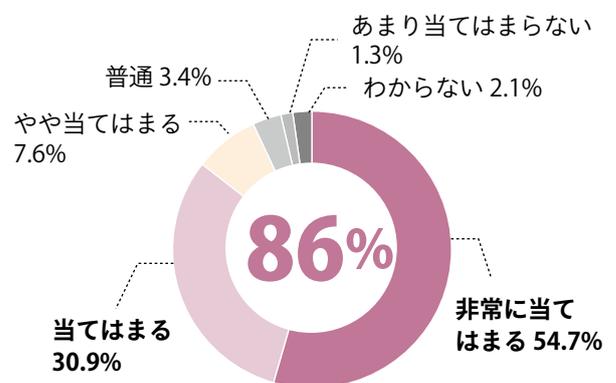
問題行動を正す教育法



落ち着きを保つプラン



自分自身をコントロールする教育法



"There are no bad boys.

There is only bad environment, bad training,

bad example, bad thinking."

- Father Edward J. Flanagan



一般社団法人
日本ボーイズタウンプログラム振興機構

〒103-0024

東京都中央区日本橋小舟町 7-2-2F

T: 03-6206-2104 F: 03-5539-3539

www.ibpf-japan.org | www.csp-child.info